



● 今月のご紹介者

大王電機 株式会社 代表取締役社長 近藤 輝 氏

『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』

著 / 新井紀子

出版社 / 東洋経済新報社



[概要]

東大入学を目指した AI 搭載ロボット“東ロボくん”は東大には入れなかった。AI の限界——。しかし、“彼”は MARCH クラスには楽勝で合格していた！これが意味することとはなにか？ AI は何を得意とし、何を苦手とするのか？ AI 楽観論者は、人間と AI が補完し合い共存するシナリオを描く。しかし、東ロボくんの実験と同時にこなされた全国 2 万 5000 人を対象にした読解力調査では恐るべき実態が判明する。AI の限界が示される一方で、これからの危機はむしろ人間側の教育にあることが示され、その行く着く先は最悪の恐慌だという。では、最悪のシナリオを避けるのはどうしたらいいのか？最終章では教育に関する専門家でもある新井先生の提言が語られる。

Q1 : この本を手にとられたきっかけについて

この本を知ったのはコロナ禍より前の2018年4月頃。ある方からご紹介を頂きました。当時はまだ平時で、ぼんやりと当社内の『教育（育成）』や『コミュニケーション』について悩んでいました。また、AIという言葉が頻出し労働人口も減少していく中、人間はどのような仕事をしていくべきか、ということも考え始めていた時でした。

Q2 : この本をお薦めしたい理由について

この本で影響を受けたのは、『教科書が読めない子供たち』、についてです。AIが労働市場に参入してくる中、人間はどんな仕事で生きていくか、そのためにはどのような能力が必要かについて、ひとつの解を示してくれています。それが『読解力』なのですが、その言葉を認識したことにより私自身も考え方や取り組みを改めました。

また、従来以上に『教育（育成）』に時間をかけるようにしました。

Q3 : どういった方にお薦めしたいですか

昨今、リカレント教育という言葉も出てきています。一人の社会人として生きていく以上、学んでいくことは大切です。学んでいくこと、教育（育成）させることに悩まれている方の参考になればと思います。是非、『読解力』をつける、つけさせるにはどうすべきかお考え頂ければと思います。



大王電機 株式会社

大王電機株式会社は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

本 社：兵庫県伊丹市北伊丹9丁目80番地1

資本金：7,350万円

従業員数：95名

事業内容：計測システム開発、計測器校正サービス、LSI テストソリューションの提供など